山形県・鹿児島県の平均世帯主余命等の比較

—1965～1985年—

山　本　千鶴子

1.　はじめに

「世帯主生命表」について前回は，1985年の山形県・鹿児島県の男の「平均世帯主余命」等を算出し，その比較を行った結果，次の点が明らかとなった[1]．

(1)山形県では，「世帯主となる平均年齢」は鹿児島県より高いが，「世帯主を引退する年齢」は低いため，鹿児島県より世帯主期間は短く，世帯主引退後の期間は長くなっている．(2)鹿児島県は山形県とは反対の状況を示し，「世帯主となる平均年齢」は山形県より低く，「世帯主を引退する年齢」は高い．そのため，山形県より世帯主期間は長く，世帯主引退後の期間は短くなっている．

以上の事を踏まえて，今回は次の点について検討を行う事にしたい．(1)1965～85年[2]の山形県・鹿児島県の男について，5年ごとに「平均世帯主余命」等を算出する．(2)前回明らかとなった事について，他の年次でも同じような結果が得られるかどうかの検討を行う．(3)「世帯主となる平均年齢」は，1965年から1985年の間で山形県と鹿児島県とでは違った動きを示している．そのため，その要因分解を行い，世帯主率の変化によるものと死亡率（生命表）の変化によるものとの寄与率を得ることを目的とする．

なお，「平均世帯主余命」等の算出方法は前回と同様である[3]

2.　「平均世帯主余命」に関する指標

図1は1965～85年について，山形県の男の年齢別世帯主率[4]を描いたもので，この図から次のことがいえるだろう．①いずれの年次も55～59歳をピークとした単峰曲線である．1965～75年の世帯主率は全年齢を通してみた場合，同じような値の単峰曲線を示しているが，1980，85年はそのレベルがやや異なっている．②年齢別にみると，どの年次も最高値は55～59歳で，その値は95％，60～64歳では1980年が一番低く（91％），他の年次はほとんど同じ値となっている．③65～69歳および70～74歳では，1965年が一番低く，特に70～74歳コーホートは1980年まで一番低い値を示している．65～69歳以上では1985年が一番高い値を示し，85歳以上では約3割の人が世帯主となっている．④30～34歳から50～54歳の間では，どの年齢も1965年の世帯主率が一番高く，年次が新しくなるにつれて低下し，1985年が一番低い値を示している．⑤15～19歳および20～24歳の年次別比較では1965年が一番低く，1985年が一番高い値を示しているが，その値は20％以下である．

1）山本千鶴子，「山形県・鹿児島県の平均世帯主余命等の比較：1985年」，『人口問題研究』，第47巻4号，1992年1月，pp.40－43参照．

2）厚生省大臣官房統計情報部から『平成2年都道府県別生命表』が発表になった（1992年12月26日）．しかし，今回は時間的に間に合わないので1990年は除いてある．

3）山本千鶴子，「平均世帯主余命の算定方法の検討」，『人口問題研究』，第46巻4号，1991年1月，pp.61－65参照．

4）年齢別世帯主率は各年次とも山形県および鹿児島県の『国勢調査』の男の世帯主の年齢5歳階級別世帯数をそれに該当する人口で除したものを使用した．

図1　年齢別世帯主率 ― 山形県：男 ―

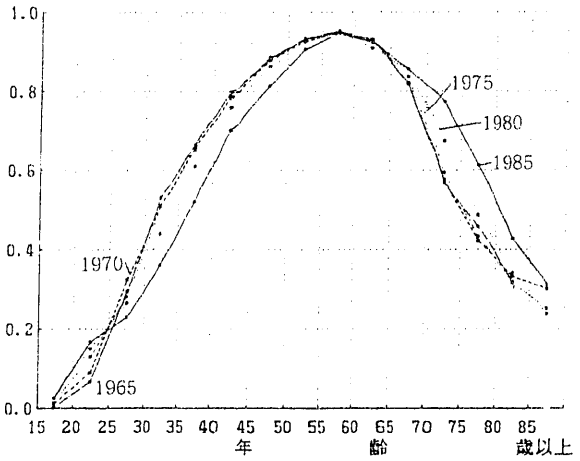


図2　年齢別世帯主率 ― 鹿児島県：男 ―

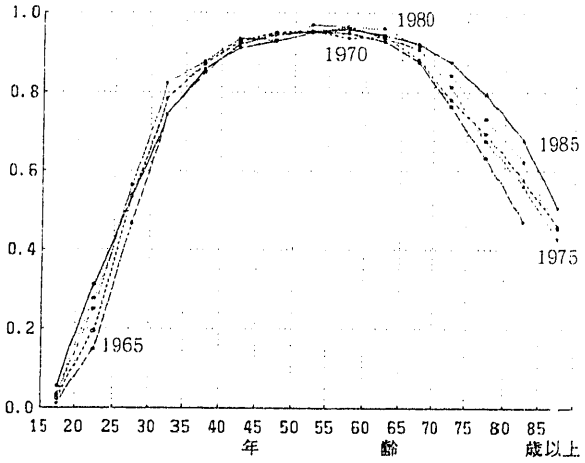


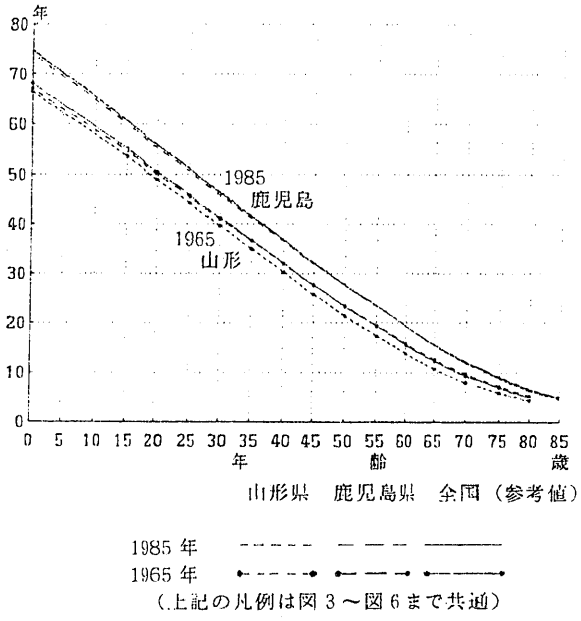
図2は同じように鹿児島県の男の年齢別世帯主率を描いたもので，この図から次のことがいえるだろう．①鹿児島県も山形県と同様に単峰曲線であるが，山形県と異なる点は40～44歳から60～64歳までは，各年次ともほぼ90%前後の世帯主率を示している．年齢別にみた場合，最高の値は1980年および1985年では55～59歳，1965～75年では50～54歳で，その値は95～97%となっている[5]．

②65～69歳以上ではいずれの年齢も1965年が一番低く，1985年が一番高い．1985年の85歳以上では約半分の人が世帯主となっている．③35～39歳以下の若い年齢で，一番低い値を示しているのはいずれも1965年（ただし，30～34歳では1985年）である．また，一番高い値は20～24歳以下では1985年，25～29歳から35～39歳では1975年となっている．

以上のことから山形県と鹿児島県を比較した場合，最近においては最高の世帯主率を示す年齢（55～59歳）もその値（95～96%）も同じであるが，図1の山形県よりも図2の鹿児島県の方が裾野が広い．したがって，年齢別世帯主率を合計した合計世帯主率[6]をみた場合，鹿児島県は山形県より大きいことが予測できよう．

次に死亡率の水準を示す平均余命を年齢別にみてみよう．図3は1965年と1985年の年齢別平均余命を山形県と鹿児島県で比較したものである[7]（図3から図5までの値は参考表1から3までを参照）．両

図3　平均余命の比較 ― 1965, 1985年：男 ―



5）このことは，鹿児島県も山形県も年次に関係なく，世帯主になるべき人全員が世帯主となった場合の世帯主率は95%前後であるということを示しているのではないだろうか．

6）今回から，「年齢合計世帯主率」と同じ意味で「合計世帯主率」を使用した．今のところ「年齢」を省いても他の指標と混同する恐れは考えられないためである．

7）使用した地域別生命表は次のとおりである．

水島治夫，重松峻夫，吉田暢夫，『都道府県別生命表　1965』，生命保険文化研究所報，第15号抜刷，1968年．厚生省大臣官房統計調査部，『昭和45年地域別生命表』．厚生統計協会，「昭和50年地域別生命表」，『厚生の指標』臨時増刊第24巻16号，1977年12月．厚生統計協会，「昭和55年地域別生命表」，『厚生の指標』臨時増刊第29巻16号，1982年12月．厚生統計協会，「昭和60年地域別生命表」，『厚生の指標』臨時増刊第34巻16号，1987年12月．

図4　平均世帯主年数の比較 ― 1965, 1985年：男 ―

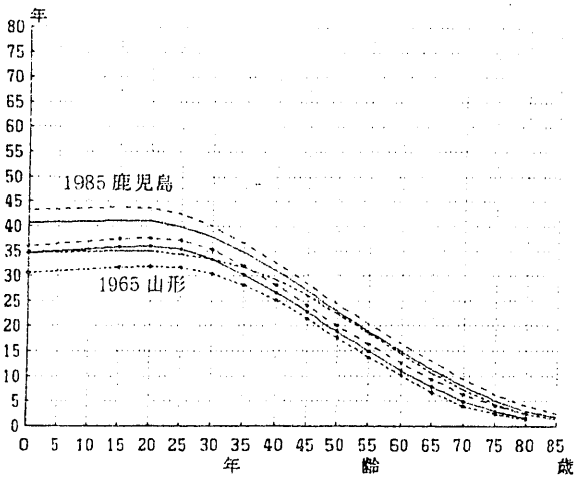
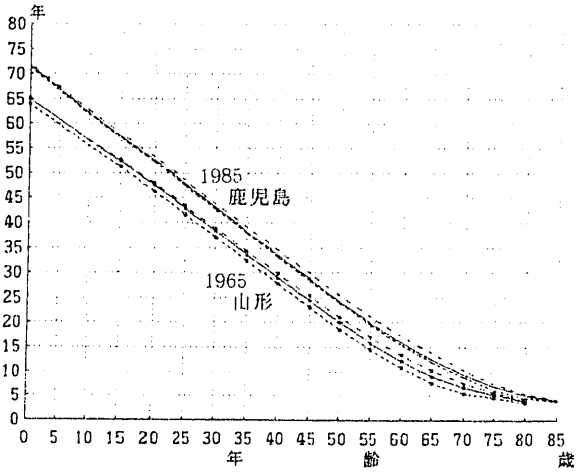


図5　世帯主を引退するまでの平均年数の比較
― 1965, 1985年：男 ―



地域とも1965年よりも1985年の方が高い値を示しており，死亡率の低下がみてとれる．1985年では2県ともいずれの年齢もほとんど同じ長さの平均余命であるが，1965年では，どの年齢においても山形県の方が鹿児島県より1～2年短くなっている．

図4は1965年と1985年の山形県と鹿児島県の「平均世帯主年数」[8]の比較を示したものである．両年次・地域とも，「平均世帯主年数」は0歳から20歳ないし25歳まではほぼ水平に近い形で推移するが，それより高年齢なると，加齢するにつれて低下している．一番低い値を示している1965年の山形県では，0歳から25歳の間は31～32年で，そこから80歳の1.4年までなだらかに低下していく．また，一番高い値を示しているのは1985年の鹿児島県で，0歳は43.3年で85歳の2.5年まで低下していく．それ以外の年次・地域はこの2つの曲線の間に位置している．

図6　世帯主となるまでの平均年数の比較
― 1965, 1985年：男 ―

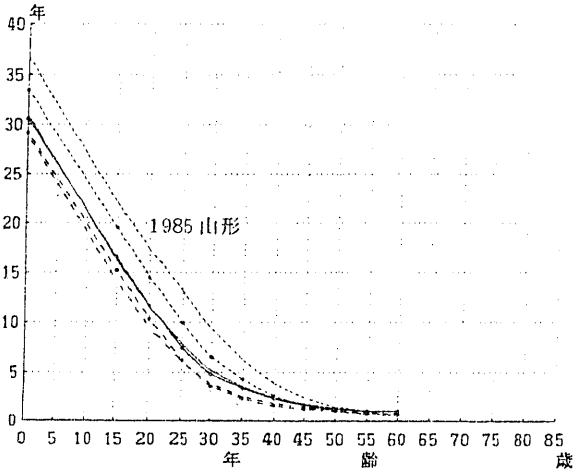


図5は，上記と同じ年次・地域について年齢別に「世帯主を引退するまでの平均年数」[9]を比較したものである．両地域とも1985年の方が1965年より高くなっている．年次別，地域別にみて1965年の山形県が一番低い値を示し，0歳の64年から60歳の10.7年までほぼ直線的に低下し，それ以降はなだらかに低下して80歳で3.6年となっている．1965年の鹿児島県は，山形県より1～2年長く，0歳の65年から80歳の4.4年まで低下している．1985年では山形県の0歳は71.3年，85歳は3.9年，鹿児島県はそれぞれ72.1年，4.3年で，2県間の差は縮小している．

図6は同様に年齢別の「世帯主となるまでの平均年数」[10]を示している．この指標はすでに述べた図4の「平均世帯主年数」および図5の「世帯主を引退するまでの平均年数」との差である．この指標を年齢別にみた場合，1985年の山形県が一番高い値を示しており，次いで1965年の山形県，1965年

8）この指標は，年齢別の世帯主率と生命表の静止人口及び生存数を使って2つの世帯主生命表を作成し，その結果得られたものである．注3）参照．

9）注8）参照．

10）注8）参照．

図7　合計世帯主率の比較：男

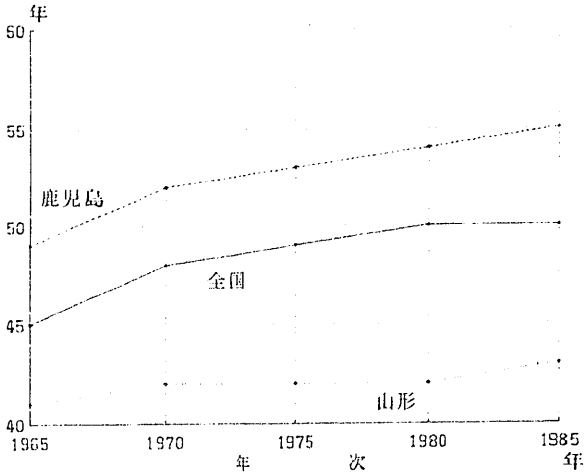
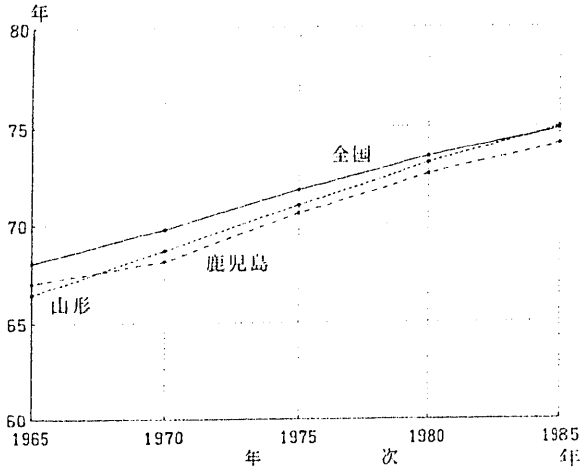


図8　平均寿命の比較：男



注）全国は参考値として描いた（以下の図表とも同様）

の鹿児島県，1985年の鹿児島県の順となっている．また，同一地域での1965年と1985年の年次差は，山形県は35歳より若い年齢では約3年の差があるが，加齢するにつれて小さくなっている．例えば鹿児島県の15歳では約1年の差がみられるが，他の年齢ではそれより小さい．

いままで検討してきたのは，年齢別ににみた指標である．これらを比較する場合，その年齢階級の数だけ検討が行われなければならないので煩雑になる．これから述べる指標は，今までふれた年齢別のものを1つに要約したものである．

図7は，1965年から1985年間の山形県と鹿児島県の合計世帯主率を示したものである（実数は表1参照，以下図11まで同様）．両地域とも1965年から1985年につれて全体的に上昇傾向を示し，山形県より鹿児島県の方が10年前後大きい値となっている．年次別に観察すると，山形県では，1965年の41.4

表1　0歳時の各指標の年次変化（男）―1965～85年―

0歳時の各指標	地域	1965年	1970年	1975年	1980年	1985年
合計世帯主率(年)	全国	44.65	47.61	48.74	49.57	49.98
	山形県	41.44	42.28	42.34	42.25	42.72
	鹿児島県	49.09	52.17	53.14	53.86	54.80
平均寿命(年)	全国	68.09	69.76	71.75	73.46	74.88
	山形県	66.49	68.71	70.96	73.12	74.99
	鹿児島県	67.06	68.14	70.54	72.53	74.09
平均世帯主年数(年)	全国	34.57	36.75	38.95	40.13	40.74
	山形県	30.61	31.88	33.35	34.18	34.59
	鹿児島県	35.88	37.73	40.36	41.98	43.26
平均世帯主引退年齢(歳)	全国	65.15	66.79	68.30	70.12	71.68
	山形県	64.04	65.50	67.17	69.10	71.30
	鹿児島県	65.02	66.18	68.20	70.38	72.11
世帯主となる平均年齢(歳)	全国	30.58	30.04	29.35	29.99	30.94
	山形県	33.43	33.62	33.82	34.92	36.71
	鹿児島県	29.14	28.45	27.84	28.40	28.85

図9　平均世帯主年数の比較：男

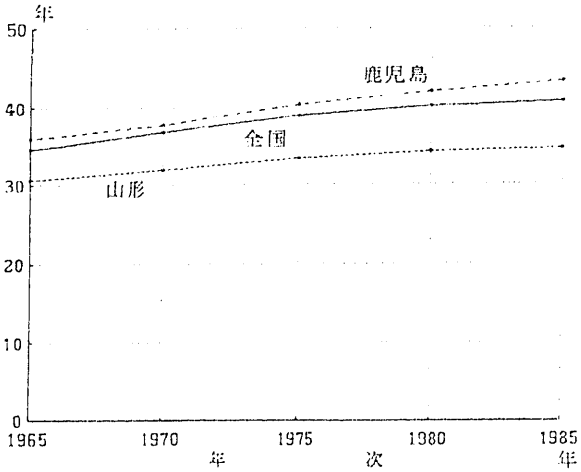
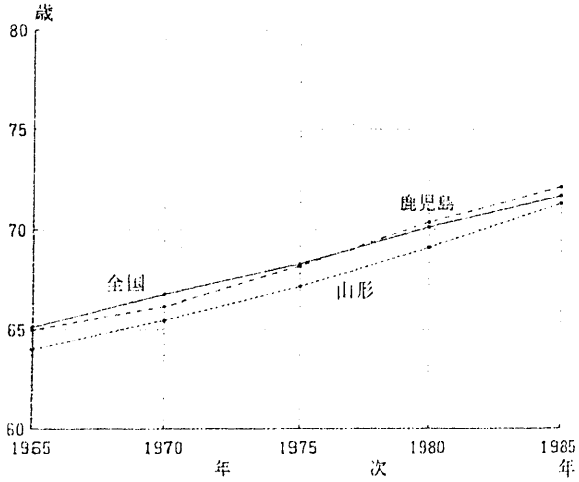


図10　平均世帯主引退年齢の比較：男



年から，1985年の42.7年へと，小幅ながら1.3年の上昇を示している．また，鹿児島県では1965年の49.1年から1985年には54.8年へと5.7年の上昇を示している．このように，合計世帯主率は1965年から1985年にかけての変化は山形県と鹿児島県とではかなりの差がみられる．

図8は同じ年次における山形県・鹿児島県の平均寿命の年次変化を示したものである．両地域とも上昇傾向にあり，1965年のみ山形県が鹿児島県より低く，それ以外の年次は全て山形県の方が高い値を示しており，1985年では，75.0年となっている．

図11　世帯主となる平均年齢の比較：男

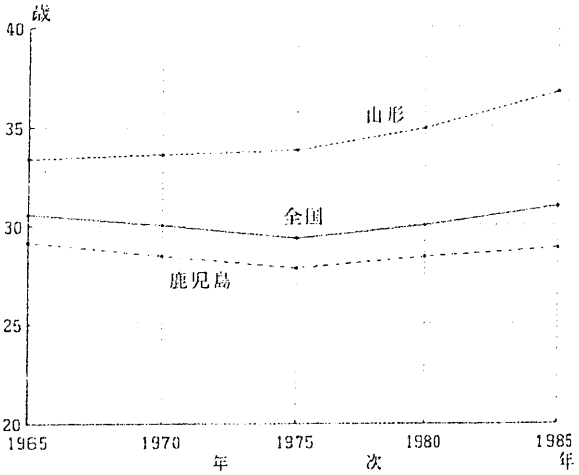


図9は同じように，「平均世帯主年数」の比較を示している．いずれの地域も上昇傾向にはあるが，1975年を境にしてその増加はやや鈍っている．「平均世帯主年数」を山形県についてみると，1965年の30.6年から1985年の34.6年へと4年の増加がみられ，鹿児島県は35.9年から43.3年へと7年の増加となっている．

図10は「平均世帯主引退年齢」の比較で，この指標も両地域とも上昇傾向を示している．鹿児島県では，1965年の65.0歳から1985年の72.1歳へと7歳高くなっている．また，山形県が鹿児島県より約1歳遅く，1965年の64.0歳から1985年の71.3歳へと上昇している．

図11は「世帯主となる平均年齢」の比較である．この指標は山形県が全体として上昇傾向にあり，1965年の33.4歳から，1985年は36.7歳となっている．鹿児島県は1965年の29.1歳から1975年の27.8歳まで減少し，それ以降は上昇傾向を示しているが，1985年にはまだ1965年の水準に戻っていない．図11は，すでにみた図9および図10と違って，山形県の方が鹿児島県より高い値を示している．この点に注目してその要因を見てみよう．

3.　世帯主となる平均年齢の変化の要因分析

表2は1965年と1985年の0歳時の3つの指標（「世帯主となる平均年齢」，「平均世帯主年数」，「平

表2　0歳時の3指標の年次変化（男）—1965・1985年—

0歳時の各指標	地域	1965年	1985年	1965～85年の増加
世帯主となる平均年齢(歳)	全国	30.58	30.94	0.36
	山形県	33.43	36.71	3.28
	鹿児島県	29.14	28.85	−0.29
平均世帯主年数(歳)	全国	34.57	40.74	6.17
	山形県	30.61	34.59	3.98
	鹿児島県	35.88	43.26	7.38
平均世帯主引退年齢(歳)	全国	65.15	71.68	6.53
	山形県	64.04	71.30	7.26
	鹿児島県	65.02	72.11	7.09

均世帯主引退年齢」）およびその年次変化を示している[11]．1965年から1985年にかけての「世帯主となる平均年齢」は，山形県では3.28年高くなり，鹿児島県では0.29年低下している．この要因を見るために，山形県と鹿児島県の1965年と1985年の年齢別世帯主率および死亡率（生命表）を使って要因分解[12]を行った．

表3　主帯主率および生命表の組み合わせによる

(1)　0歳時の「平均世帯主年数」の比較（男）（年）

生命表＼世帯主率	1965年	1985年
全国		
1965年	34.57	36.12
1985	38.56	40.74
山形県		
1965年	30.61	29.41
1985	35.33	34.59
鹿児島県		
1965年	35.88	38.04
1985	40.60	43.26

(2)　「平均世帯主引退年齢」の比較（男）（歳）

生命表＼世帯主率	1965年	1985年
全国		
1965年	65.15	66.22
1985	70.08	71.68
山形県		
1965年	64.04	64.95
1985	69.81	71.30
鹿児島県		
1965年	65.02	65.93
1985	70.74	72.11

表3の(1)は0歳時の「平均世帯主年数」の比較を示したものである．ここでは，最初に①1965年の年齢別生命表，1985年の年齢別世帯主率を使用する方法，次に②1985年の年齢別生命表，1965年の年齢別世帯主率を使用する方法により2種類の0歳時の「平均世帯主年数」を求めた．その結果，山形県では①の方法によると0歳時の平均世帯主年数は29.4年となり，1965年の30.6年より短くなっているが，②の方法では35.3年で1965年より長くなっている．鹿児島県では①の方法によると38.0年，②の方法では40.6年でいずれも1965年の値35.9年より長くなっている．

表3の(2)は先に述べた表2(1)と同様の方法で，「平均世帯主引退年齢」を求めた．その結果山形県では①の方法によると65.0歳，②の方法では69.8歳，鹿児島県では①の方法によると65.9歳，②の方法では70.7歳という結果が得られた．つまり，いずれの組み合わせでも「平均世帯主引退年齢」は上昇していることがわかる．

11）「世帯主となる平均年齢」は，図9の「平均世帯主年数」と図10の「平均世帯主引退年齢」との差なので，この2つの指標も併せて掲げた．

12）要因別分解についての主な参考文献は次のとおりである．
岡崎陽一，「日本における出生率低下の分析」，『人口問題研究』，第89号，1963年11月，pp.1～14．内野澄子，「世帯の変動と構造の分析」，『農村生活研究』，第15巻1号，1971年5月，pp.13～18．阿藤誠，「出生率低下の原因と今後の見通し」，『人口問題研究』，第171号，1984年6月，pp.22～35．

表4の(1)は0歳時の「平均世帯主年数」，(2)は「平均世帯主引退年齢」，(3)は「世帯主となる平均年齢」の要因別増加およびその割合を示したものである．

表4(1)の0歳の「平均世帯主年数」について，山形県では1965～85年の増加は4.0年（30.6年→34.6年）であった．この「平均世帯主年数」のうち世帯主率の変化による寄与（世帯主率も生命表も共に1965年のものを使用した結果得られた値から，表3の①1965年の年齢別生命表と1985年の年齢別世帯主率を使用して得られた値を引いたもの）はマイナス1.2年であり，死亡率低下による寄与（世帯主率も生命表も共に1965年のものを使用した結果得られた値から，表3の②1985年の年齢別生命表と1965年の年齢別世帯主率を使用して得られた値を引いたもの）は4.7年，複合的な要因によるものは0.5年である．また，1965～85年の「平均世帯主年数」の増加全体を100とした場合，世帯主率の変化による寄与率はマイナス30.2，死亡率の低下による寄与率は118.6，複合的な要因によるものは11.6となっている．以上のように0歳の「平均世帯主年数」に対して，山形県では世帯主率の変化による寄与が減少させる方向に働いたが，死亡率の変化は増加（延長）させる方向に働いた．

表4　要因別増加およびその割合

(1)　0歳時の「平均世帯主年数」（男）

（年，%）

地　域	1965～85年の増加	世帯主率の変化によるもの	死亡率の低下によるもの	複合的なもの
全　国	6.17	1.55	3.99	0.63
山形県	3.98	－1.20	4.72	0.46
鹿児島県	7.38	2.16	4.72	0.50
全　国	100.00	25.12	64.67	10.21
山形県	100.00	－30.15	118.59	11.56
鹿児島県	100.00	29.27	63.96	6.78

(2)「平均世帯主引退年齢」（男）

（歳，%）

地　域	1965～85年の増加	世帯主率の変化によるもの	死亡率の低下によるもの	複合的なもの
全　国	6.53	1.07	4.93	0.53
山形県	7.26	0.91	5.77	0.58
鹿児島県	7.09	0.91	5.72	0.46
全　国	100.00	16.39	75.50	8.12
山形県	100.00	12.53	79.48	7.99
鹿児島県	100.00	12.83	80.68	6.49

(3)「世帯主となる平均年齢」（男）

(3)=(2)−(1)

（歳，%）

地　域	1965～85年の増加	世帯主率の変化によるもの	死亡率の低下によるもの	複合的なもの
全　国	0.36	－0.48	0.94	－0.10
山形県	3.28	2.11	1.05	0.12
鹿児島県	－0.29	－1.25	1.00	－0.04
全　国	100.00	－133.33	261.11	－27.78
山形県	100.00	64.33	32.01	3.66
鹿児島県	100.00	431.03	－344.83	13.79

鹿児島県の「平均世帯主年数」の1965～85年の増加7.4年（35.9年→43.3年）のうち世帯主率の変化による寄与は2.2年（29.3%）で，死亡率の低下による寄与は4.7年（64.0%）で，複合的な要因によるものは0.5年（6.8%）である．以上のように鹿児島県については，世帯主率の変化による寄与も，死亡率の低下による寄与もプラスなので，共に0歳の「平均世帯主年数」を増加させる方向に働いた．

表4(2)は「平均世帯主引退年齢」の要因別上昇およびその割合を示したもので，表4(1)と同じように作成されている．山形県の「平均世帯主引退年齢」の1965～85年の上昇7.3年（64.0歳→71.3歳）のうち世帯主率の変化による寄与は0.9年（12.5%），死亡率の低下による寄与は5.8年（79.5%），複合的な要因によるものは0.6年（8.0%）である．以上のように山形県については，世帯主率の変化の寄与も，死亡率の低下による寄与も0歳の「平均世帯主引退年齢」を引き上げる方向に働いた．

鹿児島県の平均世帯主引退年齢の1965～85年の上昇7.1年（65.0歳→72.1歳）のうち世帯主率の変化による寄与は0.9年（12.8%），死亡率の低下による寄与は5.7年（80.7%），複合的な要因によるものは0.5年（6.5%）である．以上のように鹿児島県では世帯主率の変化の寄与も，死亡率の低下による寄与も，「平均世帯主引退年齢」を上昇させる方向に働いた．

表4(3)は「世帯主となる平均年齢」（「平均世帯主引退年齢」－「0歳時の平均世帯主年数」）を示している．

1965年から1985年にかけて「世帯主となる平均年齢」は山形県では3.3歳上昇した．そのうち，2.1歳（64.3%）は世帯主率の変化による差，1.1歳（32.0%）は死亡率が低下したことによる差，0.1歳（3.7%）は複合的なものの差である．一方，鹿児島県では「世帯主となる平均年齢」が0.3歳低下したが，これは「平均世帯主引退年齢」の上昇が0歳時の「平均世帯主年数」の増加より0.3歳少ないという事から起こったものである．この内，マイナス1.3歳は世帯主率が変化したことによる寄与，1.0歳は死亡率低下による寄与であった．

4. むすび

1965～85年の間，「世帯主となる平均年齢」の変化は山形県では3.3年の上昇がみられ，1965年の33.4歳から1985年の36.7歳となった．一方鹿児島県は0.3年の減少となり，1965年の29.1歳から1985年の28.9歳へと低下している．その変化の要因の寄与率は，山形県の場合は年齢別世帯主率の変化によるものが⅔，死亡率[13]の低下による割合が⅓で，いずれも「世帯主となる平均年齢」を上昇させる結果となった．また，鹿児島県の場合は年齢別世帯主率の変化は「世帯主となる平均年齢」を低下させ，死亡率の低下はそれを上昇させる方向に作用した結果，前者が後者より大きかったため「世帯主となる平均年齢」の低下がみられたといえよう．

13）ここで扱った死亡率は，世帯主数の年齢構成に影響を与える要因として使用されており，世帯内の世帯員の死亡率（たとえば，世帯主の親の死亡率，世帯主の子の死亡率など）は世帯主率にその影響が含まれているものである．したがって，本稿での死亡率低下の効果，寄与の意味はこの意味に限定されている．

参考表 1　年次別年齢別平均余命，「平均世帯主年数」および「世帯主を引退するまでの平均年数」－ 1965 ～ 85 年－

山形県　男

（年）

年齢	1965年			1970年			1975年		
	平均余命	平均世帯主年数	世帯主を引退するまでの平均年数	平均余命	平均世帯主年数	世帯主を引退するまでの平均年数	平均余命	平均世帯主年数	世帯主を引退するまでの平均年数
0 歳	66.49	30.61	64.04	68.71	31.88	65.50	70.96	33.35	67.17
15	53.68	31.65	51.14	55.44	32.72	52.15	57.36	34.03	53.49
20	48.85	31.75	46.31	50.72	32.84	47.41	52.60	34.11	48.72
25	44.24	31.68	41.67	46.07	32.63	42.74	47.87	33.64	43.97
30	39.61	30.49	37.02	41.41	31.26	38.05	43.14	32.43	39.21
35	34.92	28.08	32.31	36.79	29.00	33.40	38.41	30.10	34.46
40	30.30	25.07	27.66	32.22	26.06	28.79	33.76	27.12	29.77
45	25.74	21.45	23.06	27.74	22.56	24.25	29.24	23.57	25.19
50	21.38	17.58	18.62	23.37	18.67	19.78	24.91	19.67	20.75
55	17.38	13.72	14.48	19.28	14.75	15.54	20.67	15.60	16.37
60	13.80	10.06	10.73	15.47	10.88	11.56	16.70	11.58	12.32
65	10.64	6.68	7.65	12.08	7.27	8.31	13.02	7.80	8.84
70	7.98	3.91	5.63	9.24	4.35	6.23	9.96	4.66	6.51
75	5.92	2.40	4.68	6.95	2.62	5.26	7.42	2.73	5.33
80	4.34	1.38	3.55	5.28	1.69	4.50	5.49	1.61	4.30
85	－	－	－	4.09	1.23	3.89	4.38	1.10	3.89

年齢	1980年			1985年		
	平均余命	平均世帯主年数	世帯主を引退するまでの平均年数	平均余命	平均世帯主年数	世帯主を引退するまでの平均年数
0 歳	73.12	34.18	69.10	74.99	34.59	71.30
15	59.11	34.66	55.03	60.78	34.97	57.04
20	54.29	34.64	50.20	55.93	34.93	52.19
25	49.54	34.06	45.42	51.18	34.26	47.41
30	44.76	32.89	40.63	46.39	33.26	42.61
35	39.99	30.87	35.84	41.59	31.61	37.80
40	35.33	28.07	31.14	36.85	29.21	33.03
45	30.76	24.62	26.51	32.24	26.02	28.38
50	26.33	20.75	22.00	27.78	22.38	23.84
55	22.08	16.71	17.61	23.54	18.46	19.48
60	18.02	12.65	13.61	19.38	14.36	15.36
65	14.21	8.89	10.08	15.47	10.52	11.83
70	10.85	5.56	7.27	11.92	7.18	8.82
75	8.08	3.21	5.53	8.79	4.35	6.27
80	5.86	1.77	4.29	6.33	2.41	4.64
85	4.15	0.98	3.41	4.57	1.42	3.85

参考表2　年次別年齢別平均余命，「平均世帯主年数」および「世帯主を引退するまでの平均年数」—1965～85年—

鹿児島県　男

（年）

年齢	1965年			1970年			1975年		
	平均余命	平均世帯主年数	世帯主を引退するまでの平均年数	平均余命	平均世帯主年数	世帯主を引退するまでの平均年数	平均余命	平均世帯主年数	世帯主を引退するまでの平均年数
0歳	67.06	35.88	65.02	68.14	37.73	66.18	70.54	40.36	68.20
15	54.70	37.35	52.58	55.24	38.93	53.22	57.13	41.31	54.74
20	49.98	37.50	47.85	50.56	39.05	48.53	52.39	41.37	49.98
25	45.51	37.17	43.35	46.08	38.51	44.03	47.81	40.47	45.39
30	41.01	35.26	38.83	41.60	36.29	39.52	43.19	37.97	40.75
35	36.56	31.97	34.30	37.07	32.79	34.97	38.56	34.19	36.10
40	32.00	28.16	29.76	32.65	28.94	30.51	34.08	30.26	31.58
45	27.62	24.09	25.33	28.33	24.90	26.14	29.68	26.11	27.13
50	23.45	20.08	21.08	24.10	20.82	21.85	25.38	22.07	22.76
55	19.51	16.21	17.06	20.08	16.89	17.87	21.27	17.98	18.58
60	15.84	12.55	13.37	16.36	13.26	14.13	17.41	14.10	14.81
65	12.56	9.22	10.22	13.02	9.88	10.82	13.85	10.54	11.43
70	9.65	6.30	7.68	10.12	6.97	8.38	10.69	7.34	8.53
75	7.21	4.04	5.79	7.73	4.79	6.49	7.99	4.76	6.39
80	5.19	2.44	4.42	5.73	3.06	4.82	5.98	3.05	4.94
85	—	—	—	4.23	1.94	3.75	4.57	1.95	3.95

年齢	1980年			1985年		
	平均余命	平均世帯主年数	世帯主を引退するまでの平均年数	平均余命	平均世帯主年数	世帯主を引退するまでの平均年数
0歳	72.53	41.98	70.38	74.09	43.26	72.11
15	58.84	42.76	56.65	60.04	43.84	58.04
20	54.07	42.77	51.87	55.24	43.72	53.23
25	49.39	41.65	47.18	50.51	42.39	48.49
30	44.68	39.21	42.46	45.77	39.95	43.74
35	39.99	35.57	37.75	41.07	36.50	39.03
40	35.39	31.55	33.13	36.41	32.51	34.36
45	30.93	27.42	28.63	31.93	28.42	29.84
50	26.62	23.32	24.26	27.57	24.34	25.43
55	22.46	19.29	20.02	23.40	20.32	21.19
60	18.51	15.36	15.97	19.37	16.36	17.20
65	14.74	11.55	12.32	15.58	12.81	13.73
70	11.40	8.22	9.36	12.11	9.24	10.28
75	8.66	5.56	7.06	9.10	6.32	7.57
80	6.36	3.53	5.22	6.71	4.06	5.52
85	4.58	2.07	3.85	4.97	2.51	4.25

参考表３　年次別年齢別平均余命，「平均世帯主年数」および「世帯主を引退するまでの平均年数」―1965～85年―

全　国　男

（年）

年　齢	１９６５年			１９７０年			１９７５年		
	平均余命	平均世帯主年数	世帯主を引退するまでの平均年数	平均余命	平均世帯主年数	世帯主を引退するまでの平均年数	平均余命	平均世帯主年数	世帯主を引退するまでの平均年数
0 歳	68.09	34.57	65.15	69.76	36.75	66.79	71.75	38.95	68.30
15	55.31	35.74	52.28	56.39	37.65	53.35	58.04	39.68	54.52
20	50.56	35.86	47.51	51.68	37.70	48.62	53.28	39.64	49.74
25	45.89	35.39	42.82	47.02	37.02	43.94	48.56	38.58	45.01
30	41.26	33.37	38.17	42.34	34.74	39.24	43.81	36.20	40.24
35	36.66	30.20	33.54	37.69	31.34	34.56	39.08	32.59	35.48
40	32.12	26.64	28.95	33.11	27.65	29.95	34.43	28.69	30.80
45	27.68	22.81	24.45	28.65	23.78	25.43	29.93	24.69	26.24
50	23.39	18.82	20.07	24.32	19.78	21.01	25.56	20.60	21.79
55	19.33	14.87	15.86	20.17	15.77	16.74	21.35	16.52	17.45
60	15.59	11.12	12.11	16.32	11.93	12.86	17.37	12.55	13.48
65	12.26	7.75	9.07	12.87	8.44	9.68	13.71	8.89	10.18
70	9.35	4.92	6.82	9.88	5.52	7.33	10.54	5.83	7.72
75	6.90	2.99	5.27	7.36	3.43	5.68	7.91	3.66	6.02
80	4.90	1.68	4.00	5.30	2.03	4.27	5.78	2.20	4.60
85	－	－	－	3.68	1.15	3.15	4.10	1.29	3.53

年　齢	１９８０年			１９８５年		
	平均余命	平均世帯主年数	世帯主を引退するまでの平均年数	平均余命	平均世帯主年数	世帯主を引退するまでの平均年数
0 歳	73.46	40.13	70.12	74.88	40.74	71.68
15	59.45	40.69	56.06	60.63	41.16	57.39
20	54.66	40.59	51.25	55.83	41.08	52.58
25	49.90	39.45	46.48	51.05	39.93	47.79
30	45.11	37.20	41.68	46.24	37.81	42.97
35	40.34	33.87	36.89	41.44	34.69	38.15
40	35.63	29.94	32.15	36.71	31.02	33.40
45	31.05	25.88	27.53	32.09	26.98	28.74
50	26.65	21.78	23.05	27.64	22.90	24.23
55	22.43	17.71	18.71	23.43	18.87	19.91
60	18.39	13.71	14.74	19.41	14.90	15.96
65	14.61	10.01	11.30	15.58	11.17	12.49
70	11.29	6.81	8.51	12.07	7.85	9.47
75	8.50	4.33	6.45	8.99	5.08	6.96
80	6.21	2.62	4.91	6.55	3.07	5.13
85	4.40	1.53	3.75	4.71	1.81	3.98